

2017年12月7日

愛媛トヨタ自動車株式会社

愛媛トヨタ 第10回タイ北部物資支援 現地贈呈式参加 － 社員を代表し11名がタイ北部山岳民族の村に宿泊 －

愛媛トヨタ自動車株式会社（以下、愛媛トヨタ）【本社：松山市宮田町109-1 社長：横田英毅】は、タイ北部貧困地域の子供たちへ寄贈するため、2017年6月から2017年9月下旬まで衣服や文房具などの物資の収集活動を実施。タイ北部現地へ11月に物資をお届けした。愛媛トヨタとしてタイ北部地域への物資支援活動は、2007年より毎年継続して実施しており、今回で10年目（10回目）となる。

支援物資収集等の運営は、愛媛トヨタ自動車労働組合【執行委員長：倉橋臣博】が中心となり、物資の提供は、社員をはじめ、地域のお客様にもご協力をお願いかけた。物資の中身については、子供のものを中心に衣服・文房具・おもちゃ・毛布などを収集し、9月26日、社員有志90名により物資仕分けされ、第1回目から今回の10回目までに現地に送った物資合計は32万7,613点となる。

11月に行われた現地贈呈式に社員有志11名/社外3名が参加し、村の子供たちへ手渡しをした。また今回初めて山岳民族の村にて宿泊し、現地の方々の生活を体験した。

そして2年前に日本語の本を寄贈したBunyawat（ブンヤワット）校にて今回で6回目となるスカラシップ（奨学金）を10名に実施。

愛媛トヨタでは、国内の災害支援や海外への物資支援活動は、災害の中の子供たちや貧困の中の子供たちへ「決して、ひとりではない」というメッセージを伝えるものとし、未来の地球を創造する光である子供たちへの支援をおしみなく実行したいとしている。

第10回タイ北部支援活動の概要は、以下のとおり。

<支援物資> 40フィートコンテナ1本分
子供服/おもちゃ/文房具/毛布など
35,597点（段ボール：844箱・毛布など：124袋）

<支援先>

タイ北部山岳民族

- ①ランパーン県 山岳民族（軍に預け届けて頂く）
- ②プレー県ドンヤン村 200名のアカ族（社員が手渡し）
- ③ランパーン市にある Bunyawat（ブンヤワット）校にて10名のスカラシップを実施



<スケジュール>

2017年9月30日・・・松山港から支援物資コンテナがタイへ向け出発
2017年10月13日・・・支援物資がタイ・ラッカバンの港へ到着
2017年10月31日～11月5日・・・現地物資贈呈式に14名が参加（内社員11名）

<お問い合わせ>

詳細につきましては、愛媛トヨタ本社（TEL：089-941-5171）まで



①今回、ランパーンからさらに北、ラオスとの国境近くのプレー県ドンヤン村にて現地に宿泊し、より村の方々と交流を深める機会を頂いた。車で村に着いたのは夜にもかかわらず、大勢の方が出迎えてくれた。



②会場には僅かに通う電気をわざわざ引いてくれ、ステージやテーブルを手作りして頂き、高床の寝床まで準備して頂いた。小さな子供から老人までが民族衣装で歌や踊りを披露して下さいました。



③今回宿泊させて頂いた現地の家屋である。竹と木で作られた高床の住居は風を凌ぎ通気を良くするための工夫がされていた。私たちのお送りした毛布や衣類は生きるのに必要だということが身をもって体験する貴重な経験をさせて頂いた。



④翌朝、3つの村の方々約200名の人たちへ物資を手渡しさせて頂いた。これは現地スポンサー・ロータリーの方々の手により、事前に家族構成を確認しそこに必要なものを考慮し詰めなおすという膨大な仕分けをして下さっていた。



⑤山奥から降りて来て下さった3つのアカ族の村の方々に、ひと袋ずつ手渡しをさせて頂いた。子供たちがまっすぐな瞳で小さい両手を合わせお辞儀をする姿に私達は物資を通じたあたたかい心の交流を感じずにはいられない。



⑥山岳民族の多くはミャンマーなど隣国からの移民である。写真はアカ族。標高1,000m以上の高地に、斜面にへばりつくように集落を形成している。ここは水道はなく、電気が少し引かれているようである。



⑦2年前、日本語の本を贈呈したランパーンのBunyawat(ブンヤワット)校にて。優秀でも貧困で進学出来ない子供10名に対し奨学金を手渡しする。日本語や文化を学ぶ子供達も70名以上となる。



⑧今回の物資は、タイの軍の手によりさらに山奥の、もっと物資の無い山奥にも支援物資としてお届け頂くこととなった。